

これまでの議論と今後の検討（未定稿）

令和 6 年 7 月 29 日

組織・制度ワーキング・グループ

会員選考等ワーキング・グループ

6 ガバナンス

(B) 監事

- 監事は、ミッションを負託した納税者である国民を代表する立場で、入口（運営助言委員会）と出口（日本学術会議評価委員会）をつなぎ、ミッションに沿った活動・運営の状況を常時把握する。会長等と意思疎通を図り、相互認識と信頼を深めることも期待される。
- ◆ 監事は主務大臣が任命し、業務、財務及び会長等の業務執行の状況を監査。
- ◆ 監事は、その職務を遂行するに当たり、独立性の保持に努めるとともに、常に公正不偏の態度を保持するものとする。

《参考 1》監事監査指針（平成 26 年 12 月 19 日 独立行政法人、特殊法人等監事連絡会）（抄）

- 監事は、その職務を遂行するに当たり、独立性の保持に努めるとともに、常に公正不偏の態度を保持するものとする。
- 監事は、法人の長と定期的に会合をもち、法人の長の業務運営方針を確かめるとともに、（…）意見を交換し、法人の長との相互認識と信頼を深めるよう努めるものとする。

《参考 2》国立大学法人等監事協議会「監事監査に関する指針」（令和 6 年 4 月 26 日）（抄）

- 監事は、国立大学法人等の長、理事、運営方針委員及び職員等との意思疎通を図り、常に業務運営の状況を把握するとともに、業務運営上の課題の認識を深めるよう努めるものとする。
- 監事は、その職務を遂行するに当たり、独立性の保持に努めるとともに、常に公正不偏の態度を保持するものとする。

(C) 中期的な活動計画

- 学術会議は、ミッションを明確化・具体化するため、中期的な活動計画を策定する（仮に任期が6年であれば、計画期間も6年を想定）。
- 計画には、たとえば業務（科学的助言、国際活動、各種ネットワークの構築・活用、国民及び社会との対話の促進）の目標及び実施方法、組織・運営に関する事項、活動・運営の改善、財務などについて記載する。
- 学術会議は、中期的な活動計画の策定に当たり、外部の知見を取り入れるため、運営助言委員会及び日本学術会議評価委員会の意見を聴く。

(E) 日本学術会議評価委員会

- 学術会議は、日本学術会議評価委員会を通じて、主に活動の出口（主に任期の終了時）で、ミッションに沿った活動・運営の状況を、ステークホルダーへの説明・議論を通じて国民に可視化。
- 委員は、たとえばアカデミア、国研、産業界、地方、国民生活、組織運営などに高い知見を有する者を想定。
- 運営助言委員会との関係、学術会議が行う自己点検・評価との関係等にも留意しながら、具体化に向けた検討を進める。
- ◆ 日本学術会議評価委員会の委員は主務大臣が任命し、業務、組織・運営などの総合的な状況について、中期的な計画の期間ごとに評価を行う。